

評価項目	①学習指導
------	-------

重点目標	主体的に学び、高め合う子どもの育成		P
現 状	これまで、授業でICTの活用や「つながる場」の設定で、授業改善の共通実践に取り組んできた。県学習状況調査等では、4年生と6年生が県平均を上回り目標を達成することができたが、5年生が県平均を下回る結果となった。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT機器を効果的に活用すると共に、学習指導要領各教科の目標にある「見方・考え方を働かせ」を意識して授業改善に取り組む。 ○ 県学習状況調査等で、全学年が県平均を上回ることを目指す。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学びの型を活用する。（「八森っ子の学び合い」「秋田の探究型授業」） ○ 目的を明確にし、効果的に交流し合う場を工夫する。 ○ 発問の吟味や「ゆさぶり」など思考を深めるしかけをする。 ○ 振り返りを充実させる。（振り返りの視点、振り返りの価値付け） 		
具体的な取組状況 (中間報告)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年で、学びの型「八森っ子の学び合い」を活用し、「秋田の探究型授業」を意識した授業改善に努めている。 ○ 授業の中で「つながる場」を意識的に設定し、聞き手を意識した発表や聞く側の反応を重視し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた学習指導に努めている。 ○ 授業の導入や振り返り場面などで、電子黒板やタブレットPCなどのICT機器を積極的に活用している。これまで培ってきた「秋田の探究型授業」につながる活用を心掛けている。意見交流や思考を深める場面での活用、ノートとの併用など、よりよい使用方法を模索している。 ○ 山本出張所長訪問をはじめ、複数の訪問で指摘・指導のあった事柄について、追加したり重点にしたりして取り組んだ。9月15日(木)6年家庭科授業研究会では、全体やグループでの話し合いの仕方、ICTや手作り教材の活用方法など、思考を深めるしかけについて意見交換した。10月21日(金)には、2年算数科授業研究会を行って、TTの在り方も含めた授業改善について研修を深めたい。 ○ 12月1日に実施される県学習状況調査で成果が見えるように、今後の取組も確実にやっていきたい。 		D
自己評価	(評価) B	県学習状況調査で、昨年度結果が思わしくなかった学年を含め、全学年が県平均を上回ることであった。意見交流や思考を深める場面での学習活動を工夫するなど、授業改善に努めた結果が成果となって表れたと思われる。 ICT機器については、積極的に活用している。研修会で学んだことや、ICT支援員や推進教師の指導を生かし、各教師がICTを効果的に活用する授業に意欲的に取り組んでいる。	C
↑ 評価基準 ↓ A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない			
学校関係者評価と意見	A	学習状況調査結果を見ると目標が達成されている。ICTを活用した授業が活発に行われている。教師の働きかけで主体的に学び、中学・高校へとつなぐ基礎を身に付けている。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	ICTを活用した授業が定着し、児童のスキルも向上している。児童同士の意見交流が活発にできるように授業を構築し、全ての児童を生かす方法や、達成感を感じる授業になるようなICT活用を実践する。各種調査でのよりよい結果を目指し、学力向上を図る。		A

重点目標	地域に笑顔と元気を届け、地域に感謝し、貢献する子どもの育成	P
現 状	町CSを母体に、「JA秋田やまもと」や「読み聞かせグループかもめ」など、様々な団体と連携し多様な教育活動を展開している。昨年度は、八峰白神ジオパークを中心としたふるさと教育を実施することができた。児童が、地域に笑顔と元気を届け、地域に貢献する活動に進んで取り組みたいと思うことができるように育ててきている。	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の特色を専門の方々とともに現地で体験し感じることで、ふるさとのよさや課題に気づき地域に貢献しようとする意識を高める。 ○県の調査等で、関連項目の回答の肯定の割合が県平均を上回る。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○八峰白神ジオパークを中心とした地域学習の推進を図る。 ○小・中連携事業や地区児童会で、地域に貢献する活動を実施する。 ○生活科、社会科、総合的な学習の時間で広く八森地区に出かけ、楽しく地域のよさを学び体験する活動を行う。 	
具体的な取組状況 (中間報告)	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年で計画的に八峰白神ジオパークを中心としたふるさと学習を進めている。(柱状節理、三十釜、留山、白瀑、山村広場) ○昨年度から「親子でジオサイト」を実施し、保護者にも八峰白神ジオサイトについて理解してもらう機会を設けている。参加した保護者にも概ね好評で、児童が学習している「ふるさと学習」の内容を理解することに役立っている。 ○中学校と連携し、地区児童会で地区のクリーンアップ等奉仕活動を行った。地域の方々が参加してくださった地区もあり、交流の機会になった。 ○町内小・中学校で連携し、8の付く日は「八峰あったか思いやり運動」を実施し、八峰町全体で元気なあいさつや優しい声かけに努めている。あいさつの元気ぐあいは地区によって差があるので、改善が必要と考える。 ○生活科、社会科、総合的な学習の時間で岩館・観海・八森地区に出かけ、楽しく地域のよさを学び体験する活動を行っている。 	D
自己評価	<p>(評価)</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p>八峰白神ジオパークを中心としたふるさと学習に取り組み、ふるさとの理解やふるさとのよさをまとめる活動などで成果をあげている。アンケート調査でも児童は、地域との触れ合いについて高い自己評価をしている。昨年からの実施の「親子でジオ」で、保護者も一緒に地域について学び、ジオパークを理解し、児童の活動に賛同するようになってきている。中学校と連携した奉仕活動も定着し、地域への貢献意識も高まっている。なお、日常の地域でのあいさつなどは、児童によって、或いは地区・学年によって差があり、まだ改善の余地を残している。</p>	C
<p>↑ 評価基準 ↓</p> <p>A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		
学校関係者評価と意見	<p style="text-align: center;">A</p> <p>「親子でジオ」の取組やジオパークを活用したふるさと教育は、ジオパークの上部組織である「日本ジオパーク委員会」から高く評価されている。</p>	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>「親子でジオ」は、今後も工夫改善しながら継続したい。峰浜地区にも範囲を広げるなど、見学場所を増やしたり、テーマや視点を工夫して、参加者の関心がより高まる行事にしていきたい。地域に誇りを持ち、貢献していける子どもに育てたい。</p>	A

重点目標	心と体の健康やたくましさをもった子どもの育成
------	------------------------

現 状	計画的に運動に親しむ機会を設定し、体力を向上させるようにしている。学校では元気のよいあいさつができるが、地域ではあまりできない児童がいる。あたたかい言葉遣いや思いやりのある行動をするなどの指導は継続してきている。
-----	--

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○一生懸命運動する機会を増やし、体力やたくましさを付けさせる。 ○あいさつや「あったか言葉の木」を活用した活動などを充実させ、心の健康につなげていく。
--------	--

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○マラソン大会を春秋2回実施し、タイムの更新などの目標をもたせた取組を行う。 ○あいさつや思いやりのある行動などの大切さを意識し、あいさつ運動を実施したり、体験活動と道徳教育を組み合わせたりする。 ○児童会体育委員会が中心になって計画的に業間運動を実施する。
------------	---

具体的な取組状況 (中間報告)	<ul style="list-style-type: none"> ○全校児童が運動できるように、児童会体育委員会が「すくすくタイム」に、マラソン練習などの業間運動を実施している。 ○春季と秋季の2度のマラソン大会を行い、タイムや順位で目標設定をしっかりと行わせ、表彰を行った。1位や上位を目指して真剣勝負を挑む児童や、タイム更新を目指して努力する児童の姿が見られた。父母や祖父母が多数参観した。 ○道徳的価値「思いやり」を、道徳教育の重点項目に設定するとともに、全校で「あったか言葉の木」運動にも取り組んでいる。 ○縦割り活動で、高学年児童が低学年児童に優しく掃除の仕方を教えたり、声掛けをしたり、思いやりのある行動を体現している。 ○全校で取り組む健康に関する強調週間「八森っ子ヘルス&ハピネス・チャレンジ」を「学校ヘルハピ」と「おうちヘルハピ」に分割し充実させている。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校ヘルハピ（歯みがき、姿勢、運動、偏食） ・おうちヘルハピ（朝食、夏休み生活、メディア・ゲーム）
--------------------	--

自己評価	<p>(評価)</p> <p>B</p> <p>年2回のマラソン大会に向けた取り組みなどにより、意欲的に運動する児童が増え、体力テストではどの学年も県平均を上回る種目が多く、概ね良好な結果となっている。「ヘルハピ」の取組で、健康や生活習慣への意識を高めてきている。「ヘルハピマシーン」や記録カードを活用し、成果を確認している。</p> <p>また、県の事業を活用し、「くまぐま園」見学を実施した。生命尊重につながって児童の心に残るような活動を行うことができた。</p>
------	---

↑ 評価基準 ↓

A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	<p>A</p> <p>2回のマラソン大会の実施で一人一人の目標にあった体力づくりが行われている。「くまぐま園」見学を縦割り活動で行うなど、児童の心に響く新しい取組があり、評価できる。</p>
------------	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>水族館や熊牧場で生き物と接する体験を通して得たものを大切に、命の大切さや思いやりの気持ちを引き続き育てていきたい。あいさつは、地域の方々からも「とてもよい」「前よりよくなった」と言ってもらえるように取り組みたい。</p>
-----------------------	---